

つくばから未来の産業へ つくばイノベーションアリーナ ナノテクノロジー拠点 (TIA-nano)

■ 日本最大のナノテクノロジー研究拠点

TIA-nanoは、世界最大規模の研究開発機能が集積するつくば研究学園都市において、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学、高エネルギー加速器研究機構が中核機関として共同で運営する、日本最大のナノテクノロジー研究拠点です。

■ 「つくば」から未来の産業へ

「つくば」から未来の産業へ」を標榜し、日本経済団体連合会(経団連)の協力のもと、21世紀のナノテクノロジー産業の創出を目指して、産官学が協同して最先端研究とその産業化および人材開発に取り組んでいます。



■ 「科学技術イノベーション総合戦略2014」

2014年6月24日に閣議決定された「科学技術イノベーション総合戦略2014」において科学技術イノベーションが取り組むべき課題として「分野横断技術による産業競争力の強化」が挙げられ「デバイス・センサや新たな機能を有する先進材料を開発するためのナノテクノロジー」がその推進力のひとつにあげられる中、TIA-nanoの果たすべき役割、産業界からのTIA-nanoへの期待はますます大きくなっています。

■ 省庁を超えた4機関連携により日本のイノベーションシステム構築に貢献

省庁を超えた4機関連携により、研究分野間の融合を促進し、イノベーションを生み出す日本の科学技術研究システム構築の一つのモデルとして、つくばからの発信が我が国の技術を牽引することを目指しています。

運営体制

■ 組織運営

TIA-nanoでは、その最高意思決定機関として、中核4機関の長に産業界の代表と学識経験者及び運営諮問会議議長を加えた7名により構成される運営最高会議を設置しています。運営最高会議はTIA-nanoの運営を統括しながら、重要事項を審議し、方針決定していきます。

一方で、主に産業界のメンバーにより構成される運営諮問会議はTIA-nanoを活用する主要ユーザーたる産業界との調整を行います。これらの円滑な運営のため、事務局機能は中核4機関が連携して行っています。



運営最高会議メンバーと岸名誉顧問。左から、住川雅晴(TIA-nano運営諮問会議議長)、鈴木厚人(KEK機構長)、潮田資勝(NIMS理事長)、岸輝雄(TIA-nano運営最高会議名誉顧問)、中鉢良治(産総研理事長)、永田恭介(筑波大学長)、内山田竹志(経団連産業技術委員会委員長)

